

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「笑顔に心を込めて 気配り 目配り 心配り」という理念をあげている。 継続して実施する。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念を職員の目につき易い所に掲示し、毎朝の申し送りの際に復唱をしている。お互いに助け合い、よりよい介護をするよう心掛けている。 継続して実施する。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	小学生・中学生との交流はあるが、保育園・幼稚園との交流や、地元の「元気を広げる会」の講習者にも参加を促している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近所の方々から、野菜をいただいたり、地元の神社や公園を散策して挨拶を交わしたりしている。ホームで使うお米も近所の農家から分けてもらっている。 悠久祭りには、地域の自治会の方、地元の方も来ていただき賑わいを見せた。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地元の小学生・中学生のインタビューを受けたり、その発表会に招待されたりしている。お礼に入所者の作った折り紙作品を差し上げたりしている。地域の文化祭には、楽しまれて作った作品を出品している。敬老会には地元のお年寄りも招待し、参加していただいている。 地区の夏祭り・敬老会にも参加している。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		8月26日の悠久祭りには、地域の方々や家族を招待し、入居者・職員・ボランティアによるオカリナ演奏、フラダンス、コーラスなど開催した。 「悠久新聞」に認知症についての記事を毎回掲載し、地元の人に配布し理解を得るようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	入居者が主体であることを、全職員が意識してカンファレンスを通じて理解するようにしている。	職員間で反省し合いながら、職員の質の向上に努力をしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	悠久新聞を配布したり、報告そしてモニター役を依頼したりしている。	他ホームでの活動内容を参考にしたり、市よりアドバイスをいただいたりしてサービス向上に活かしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、積極的に連絡を取り、情報交換しサービスの質の向上に取り組んでいる。	○ サービスの質の向上はこれで終わりということはないと思うので、日々努力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前権利擁護の制度を利用していた方がおられたが現在のところはない。必要な方がおられたら、いつでもできる体制はとっている。現在成年後見制度を利用している方が1名おられる。	継続して実施する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	できるだけ多く研修会に参加し、学ぶ機会を多く持つようにしている。定例会議や個々の話し合いの中で日常的な観察を行い些細な変化を見逃さず、早期発見に努めている。	○ 声を掛けるとき、他人行儀な言葉ではかえって親しみが湧かず、馴れ馴れしい言葉だと年長者に対して失礼に当たってしまうので、注意を払うよう心がけている。
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に十分な説明を行い、理解・納得を得ている。新規契約を必要とする時はそのつど説明をしている。状態の変化により必要性が生じる場合は契約書の内容の説明と確認をお願いしている。	継続して実施する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、受付担当者および解決責任者の氏名も明記している。また、全職員が情報を提供し意見などがあれば、改善策を話し合い、ノートで伝達し職員に周知するようにしている。	入居者・家族の方との会話がスムーズにできるよう心がけている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に家族へ手紙で入居者の生活などについて連絡・報告を行っている。緊急時には、電話連絡もしている。また、家族の面会時にも報告を行っている。	継続して実施する。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営委員会を設け、意見・不満・苦情を引き出し、運営に反映させている。また、職員は家族などと日頃から何でも話せる人間関係をつくれるよう努力している。	継続して実施する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の部署会議を開き、問題点について意見交換し、ノートで伝達している。また、緊急時にはすぐその場で連絡も取り合っている。できるだけ早い時期に改善できるよう努力している。	継続して実施する。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1か月前に勤務の調整に努めている。また、状況の変化・要望に対応できるよう職員間でも助け合い、勤務調整に心掛けている。	継続して実施する。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者全体の把握・理解に努め、入居者となじみの職員を配置できるように考慮し支障をきたさないようにしている。交流レクリエーションにより、いずれの職員ともなじみができるようにしている。新しい職員が入った場合は家族などにも紹介している。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・管理者研修は可能な限り参加するようにし、その他できる範囲において参加できるようにしている。情報の提供もしている。勤務の調整もしている。	○パートの職員を配置し勤務調整をしやすいようにしている。勤務の都合上、全員参加の勉強会はできていないが、個々に研修に参加し話し合いはしている。グループホームに適した人材を育成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し情報交換・意見交換をしている。近隣のグループホームとの交流もある。		他施設の方と連絡をしいながら、ネットワークを構築している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みは運営者や管理者に相談している。生活相談員の資格を有する者もいて相談しやすい。	○	ストレスを軽減するための工夫・配慮をしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員に責任をもって処理する仕事を分担しており、運営者は個々の努力や実績・勤務状況を把握している。また、研究会や勉強会に積極的に参加できるようにしている。		継続して実施する。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に、相談の段階で家族・本人と面談し、情報収集し十分な話し合いを受け止める努力をしている。入所後にトラブルが発生しないよう努力している。		継続して実施する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自宅へも訪問し、現状も把握し受け止める努力をしている。独居の方の中には、家屋敷を処分して入居された方もいる。		独居の方の荷物も別棟で預かり入居後の生活も不自由ないように努めている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前もって気がかりなことを話し合い、必要としている支援・サービスを説明し、よく聴く努力をしている。医療保険でのサービスや往診による受診、訪問歯科受診、訪問マッサージなどについて支援している。		継続して実施する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族にホームに訪れていただき、質問に応じ安心して利用できることを説明している。また、実際本人に体験していただいたり、家族とともに宿泊していただいたりしている。</p>	<p>継続して実施する。</p>
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人のできる範囲で家事などを一緒にし、職員と一緒に生活をしているという関係を築くことができるよう努力している。一緒に食事をしたり、食材の買出しにいった時には、どのメニューが美味しいか教えていただいたりしている。ニュースを見れば、感想を言い合い、戦争中の話を聞かせていただいたりしている。夏祭りに参加して、いただいた金魚を大切に育てている。</p>	<p>掃除、調理の準備、洗濯物たたみ、食器の片づけ、花の水遣り、買い物、献立の記帳、手芸など職員が教えていただく立場をとっている。</p>
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族などの訪問があったときには、本人が抱えている問題点や喜怒哀楽を職員と一緒に話し合うようにしている。</p>	<p>家族などの訪問時には、職員も一緒に会話に参加し、カラオケなども一緒に楽しんでいる。</p>
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族などの訪問は歓迎しており、訪問時には水入らずでリラックスして過ごせる場を提供し、お茶を差し上げたりしている。また、職員が本人の介護で疑問に思ったことなどを質問し、一緒に考えていくことでよりよい関係が保たれている。</p>	<p>継続して実施する。</p>
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人の訪問は歓迎しており、関係が途切れないようにしている。</p>	<p>お墓参り、銀行への預金の引き出し、友人宅への訪問など少なからずある。</p>
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>お互いに相性の良い方が気軽に会話ができるように席順を配慮したり、居室に引きこもりにならないように誘導したりしている。また、入居者同士がお互いに助け合う場面に職員が遭遇したときには、見守り、感謝の言葉をかけるようにしている。</p>	<p>継続して実施する。</p>
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>環境の変化によるダメージを最小限に留めるように、本人・家族と話し合いを持ち情報を交換しているが十分ではない。道でお会いしたときは気軽にお話をしている。</p>	<p>○ 充分ではないので、今後関係を断ち切らない付き合いを大切にしたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活習慣・意思を尊重し、安心して暮らしができるように支援している。食事を取る場所、洗濯物を干す場所、起床時間や就寝時間など支援している。本人が把握することが困難な場合は、家族などに確認して検討している。	継続して実施する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族などからの情報をアセスメントし、個々の生活歴やできることなど職員が理解し、快適な生活ができるよう支援している。センター方式を取り入れ活用している。	継続して実施する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活習慣に応じて、具体的に計画を立て、全職員からも情報収集し、現場で把握するよう努めている。	バイタルサイン、排尿・排便記録などを記録し、個々に応じた介護に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。家族などだけでなく、担当医師・看護師・マッサージ師・歯科衛生士などとの意見・指示も反映している。ボランティアと共にカラオケ・フラダンスなどで楽しむことなども計画に反映している。	本人の好みの曲を楽しまれている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6か月で、見直しをしている。変化が生じた場合は、その都度、本人・家族・関係者などと話し合い新たな計画を作成している。	継続して実施する。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の個別記録に記入し、特徴や変化を捉え、介護計画の見直しに活かしている。便の排泄表・受診や往診時の指示や薬の変更時の様子観察記録も活かしている。	継続して実施する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族などが入院して、受診に同行できない時や、衣替えのための買い物や銀行に同行している。入院を勧められた(腰痛)入居者がいるが、家族の希望もあり、通院のみでホームでの生活を継続している。	継続して実施する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	車椅子を使用して地域の商店での買物や、公園・神社・お池への散策を楽しまれている。地域の文化祭への出品、見学ボランティアの受け入れ、警察・消防などに協力していただいている。	継続して実施する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	包括センターの職員の方との話し合いや、入居前の行きつけの病院などの利用を支援し、医療保険で補えるリハビリなど、サービスが利用できるように支援している。	継続して実施する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2か月に1度、運営委員会を開催し、それぞれの意見やアイデアを出し合っている。	継続して実施する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みの医師による定期的な往診をしていただいている。緊急時には、その医師に連絡し、その都度、指示が受けられる体制になっている。	継続して実施する。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の定期的な往診、訪問歯科の往診、訪問リハビリを受けられるシステムになっている。また、往診時には職員の相談に関し快く応じていただいている。	協力医療機関の認知症専門医師の回診を一週間に一度受けている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームでは看護職員がいて、日常の健康管理の支援をしている。また、往診時に同行している看護師とも気軽に相談することができている。	緑茶による口腔ケアのアドバイスをいただいた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>継続して実施する。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>今期末期がんの方を看取った。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>継続して実施する。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>病院・老人保健施設など入居先を家族の方が選択できるよう、いくつかの場所を案内している。また、以後の生活の役に立つように介護添書を作成している。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>継続して実施する。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>バリエーションの方法について事務所にも掲示し、常に入居者が表出しやすいように取り組んでいる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思・希望を第一に考え、一人ひとりのペースに合わせるよう支援している。(起床・就寝時間、昼寝の時間、レクリエーションの参加・不参加、食事場所、入浴など)		継続して実施する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に応じて散髪・髭剃りをし、好みの服装をしている。散髪は理容師資格保持の職員が、散髪コーナーを確保し別の場所で行っている。パーマは出張してもらっている。ご家族と一緒に馴染みの理容店に行かれている方もいる。		継続して実施する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者の好きな献立を取り入れて、味付け・盛り付けに工夫をしている。苦手のメニューの時は別の物を作ったりしている。食事の準備・片付けなどは、入居者と職員と一緒に時には食堂で、時には台所で、積極的に、また声かけによって行っている。		継続して実施する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みのものを家族が差し入れたり、職員とともに買い物に行ったり、頼まれて職員が用意をしたりして支援している。水分補給のために、ココア・コーヒー・紅茶・麦茶・番茶・イオン飲料など多種用意している。おやつも一人ひとりの状況に合わせている。現在、飲酒・喫煙の方はいない。		継続して実施する。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便記録を利用し、服薬時間や量の調整をしている。排泄パターンを一人ひとり調べ、トイレ誘導や介助を行っている。使用するオムツは 個々にあった物を選んでる。特に排便はトイレでできるように介助している。		できるだけ薬に頼らない、自然排泄ができるように、色々と試している(寒天・バナナ・甘藷・ココアなど)。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調、浴室の温度、お湯の温度など利用者本人に合っているか個別に対応している。予定日に入浴できなかった場合、できるだけ早い日に入浴できるように調整をしている。時にはシャワー浴、足浴など本人の希望にあわせている。		介助する際には必ず声かけをし、滑り止めマットの使用や手引き誘導などおこなっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、昼夜逆転しないよう支援している。足のむくみを起こさないために見守りながら足を挙上する時間を取るようし気持ちよく安眠できるよう支援している。		短時間の昼寝を実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の興味あることを把握し支援している。カラオケ・園芸・新聞・家事・手芸をとりいれている。また、交流レクリエーションでは、音楽療法・回顧療法・学習療法にも取り組んでいる。	継続して実施する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のために高額所持は避けている。個々の能力・希望に応じた額を所持している。職員と一緒に買い物に行き、お金が使えるように支援している。	継続して実施する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園・神社・川辺を散策したり、買い物や通院など職員とともに外出している。隣のアイスクリームを食べに行ったり、時には 外食(うどん)の支援をすることがある。	中庭の散策は自由にできるようにしてある。時には喫茶店でコーヒーを飲まれることもある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見など遠くに出かけるときは、家族の方も一緒に参加していただき喜びを分かち合っている。	洋服等の買い物に出かけ、自分の好みのものを買われ楽しんでいる。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話を使用することができるし、手紙のやり取りができるよう支援している。	年賀状はレクリエーションの時に書き投函している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間も9時～21時と幅広い時間帯を用意している。面会を歓迎している。大勢の方々でも、プライバシーを守ることができる場所を用意し、茶菓子を出すなどの気配り心配りをしている。	継続して実施する。
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の送り時などでその日のケアを振り返り、身体拘束が行われていなかっかを確認し合っている。	継続して実施する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午後の9時までは玄関の鍵をかけず、庭へ自由に出入りできるように配慮している。	夕方の「帰るコール」に対しては、声かけ、気分転換(茶話会への出席、お誘い)などで、落ち着かれている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室への出入りは、ロック・声かけしてから行い、全員の様子をさりげなく常に見守っている。夜間は入居者が見渡せる場所で見守っている。更衣中などはプライバシー保護のためにドアを一部閉めて介助しているが、外の様子にも気を配っている。	継続して実施する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて、さりげなく危険防止の取り組みをしている。針やハサミを持っている人もおり、針の数は本数を制限している。床に落ちたものを食べる人、服薬ができない人もいる。皮むき器より包丁の方が使い慣れている人もおり、さりげなく見守りをしている。	継続して実施する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット事例を認識し職員間で情報の共有を行い、今後の事故防止に取り組んでいる。	継続して実施する。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルはあり体制は整っている。	○ 職員の中に初期対応の訓練を受けたものもいる。暫時受講していきたい。夜勤者は、出勤するとまず緊急対応マニュアルに目を通している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は具体的に誘導の体制が整っている。夜勤時には手薄になるので夜勤に入ったときの災害を想定、シュミレーションをするようにしている。	地域の協力体制については、自治会に協力依頼をしたりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	○	入所者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握し、家族などに説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○	入所者の普段からの様子を良く知り、常に変化や異常に気付いたら、看護師に相談し管理者への報告、家族への報告、病院への搬送など早期対応が日常化している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○	薬の説明書を個別にファイルし、職員が内容を把握できるようにしている。職員は服薬する薬の目的や用法・副作用について理解しており、飲み忘れがないよう支援している。症状に変化があった場合は担当医師に連絡している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○	個々に応じた自然排便を促すよう工夫している。排便記録をつけ、継続的に便秘予防に対応している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○	食後の口腔ケアの重要性を理解し手入れの支援をしている。訪問歯科の口腔ケアを週1回実施している。就寝前は義歯の洗浄を実施している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○	食事時・間食時・入浴後には水分摂取を支援している。野菜は煮野菜を中心に汁物類は必須とし、1日ペットボトル1本以上のお茶を用意している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルがあり、マスクや手袋を使用し、手洗い・消毒を徹底している。また、塩素系漂白剤を薄めた消毒液を作り廊下・手すりなどを拭いている。天気の良い日には布団や畳を干している。下痢便・嘔吐物は新聞紙やビニール袋に入れて、口を縛り速やかに屋外のごみ箱に捨てるようにしている。		継続して実施する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒・乾燥を行い、食材は新鮮なうちに使用するよう工夫している。冷蔵庫や冷凍庫の点検清掃もきちんとしている。		継続して実施する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外玄関からのアプローチに花木を植え、畑には野菜を作り、季節感が味わえる工夫をしている。		近所の方から、野菜などの差し入れをいただいている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は自然木で建築されており、木の温もりが感じられる。天井が高く、威圧感がない。暖簾・すだれの利用、カレンダーや毎日の献立表、装飾品で季節感を演出、時にはα波のオルゴールが聞こえてくる。		継続して実施する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや奥の廊下に気軽に腰掛けられるソファがあり、玄関にも自由に座れる場所がある。仲の良いもの同志がよく語らっている。		中央の娯楽室では、他の棟との方と仲良く話していることもある。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人が使い慣れた家具や備品を置いていただき、安心して生活できるようにしている。		継続して実施する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝食事時に全室換気している。できるだけ自然環境に近い換気にこころ掛けている。扇風機で空気の流れをつくっている。温度計・湿度計を使用し温度・湿度をチェックしている。直接風が当たらないように工夫している。		継続して実施する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差をつけず手すり、引き戸など自立した生活が送れるようにしている。		個々の身体機能の状態に合わせて、危険防止や自力で行動できるよう道具の工夫をしている。入浴時にも、個々の能力に合ったいすを用意している。また、身体機能に応じて手押し車やリクライニングの車椅子も使用している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の認識間違いや判断ミスを最小にするよう支援したり、思いがけない不安や混乱・失敗などの対処をゆっくりと聴いたり、寄り添ったり、何度も説明したりして自立して暮らせるよう工夫している。		継続して実施する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に季節の花や野菜を植えたり、ベンチを置いている。花を摘む、中庭を散策する、休憩するなどから楽しんだり、活動したりすることができている。		継続して実施する。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○印をつけて下さい	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○印をつけて下さい	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方が心身共に安全で穏やかに過ごしていただく。今までの生活体験を踏まえ残存機能を活かし、その人らしく暮らせるように支援する。そのための方法として、①住み慣れた地域やホームの中で係わり合い、支えながら支援する。②本人・家族とよく話し合いをし、希望に沿えるよう支援していく。③本人の立場に立った介護計画を作成し、その計画に基づいたを支援する。④医療体制を確立し予防医療、病気の早期発見に努め治療に努める。⑤職員間の和を大切にする。